

さんかくす  
**三角州**

河口につくられる堆積地形



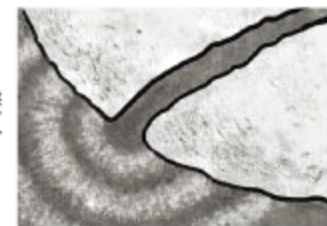
平野は海へ近づくと傾斜が緩やかになります。土地が平らな河口付近では流れも緩やかになり、運ばれてきた土砂がたまり続け、たまった土砂を避けて流れが分かれたところに陸地ができます。これが三角州です。

細かい泥や粘土などからできている三角州は地盤沈下が生じやすく、洪水や高潮の危険性があります。水面より低くなった陸地を堤防で守っている地区もあります。

【三角州ができるまで】



①海や湖に到達すると川の流れが緩やかになり、土砂がたまりはじめます



②河口付近に高まりができるので、川はそこを避けて流れ、結果的には放射状の流れとなります



③川は放射状に流れながら土砂を堆積させていき、やがて土砂は放射状の広がりを見せます



④新たな陸地が作られます

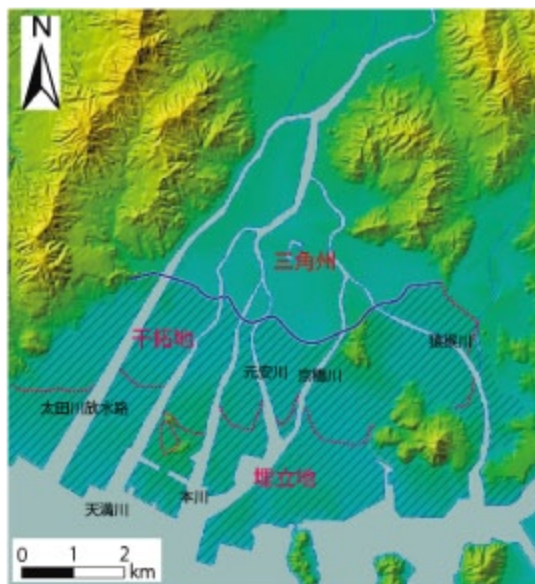


写真1-11 太田川の三角州  
(国土交通省太田川河川事務所より引用)

三角州上に広島市の市街地が発達し、干拓と埋立てにより陸地が更に海側へ広げられています。

図1-15 写真1-11地点の色別標高図  
(地理院地図を編集)

自然の三角州は斜線の手前までで、残りの海側の陸地は干拓地と埋立地です。